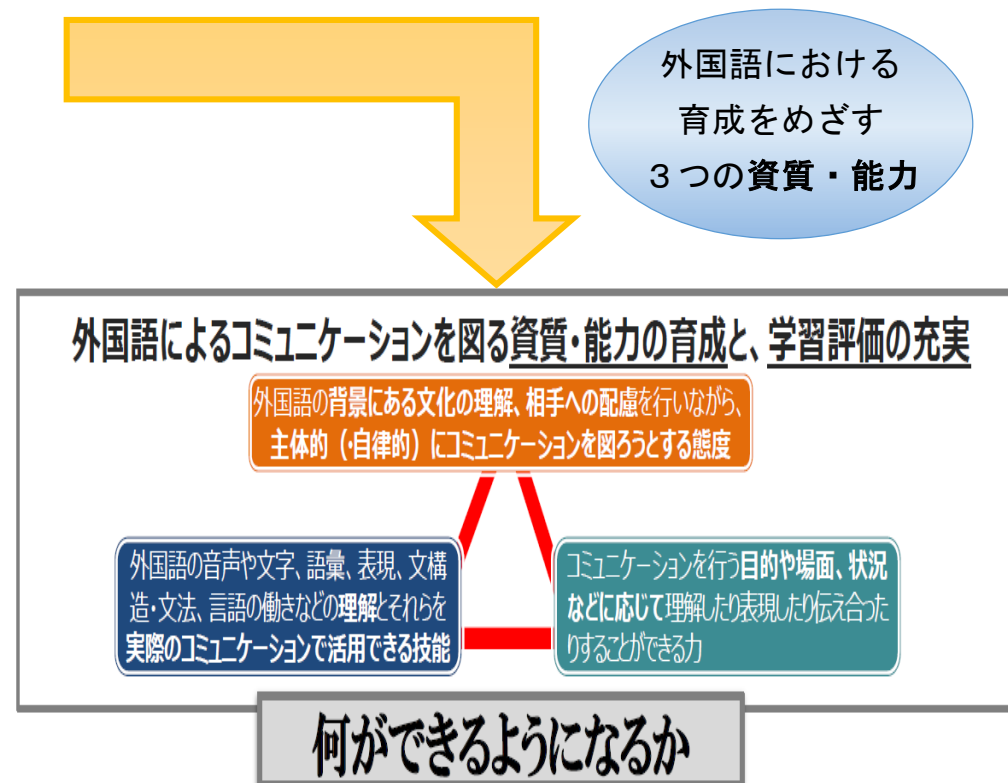


外国語科における生徒の「主体性」を引き出す授業づくりに向けたリーフレット

「主体性」を引き出す授業づくりをする上での課題

- 4技能5領域をバランスよく育成することが求められる中、精読や問題演習等の「読むこと」が大部分を占めている。
- グローバル化が急速に発展する中、生涯にわたる様々な場面で外国語を用いてコミュニケーションを取ることが想定されるが、「やり取り」や「即興性」の要素を含む言語活動が十分に実施できていない。
- 読んだことについて意見を述べ合うなど複数の領域を結び付けた言語活動が十分に行われていない。



上記課題を解決するために必要だと考えられること

- 「知識及び技能」を実際のコミュニケーションの場面において活用し、考えを形成・深化させ、話したり書いたりして表現することを繰り返すこと。
- 生徒が興味をもって取り組める言語活動を段階的に取り入れたり、自己表現活動を工夫したりするなど、様々な手立てを講じること。
- 即興でやり取りする場面において、相手の理解を確かめながら話したり、相手が言ったことを共感的に受け止める言葉を返しながらいちように意識させること。
- 授業等での言語活動を通して、自分にどのような力が欠けているか、どのような学習が更に必要かなどを自ら考え、それぞれが授業での言語活動を充実させるための努力を授業外でも続けようとする自律的な態度を育むようなしかけをすること。

<実際のコミュニケーションの場面において活用する際のポイント>

目的

英語を用いて、何をする（何ができるようになる）ための言語活動なのか

必然性

場面・状況

目的を達成するために、どのような場面や状況を設定して言語活動を行うのか

自分事

- ①聞き手に合わせて話す速度や情報量を調整
- ②読み手に合わせて使用する語句や文、情報量を調整
- ③話し手に使用する語句や会話、発表の仕方を提示
- ④書き手に書く際に有用な語彙や表現などを提示

課題解決に向けた具体的な実践例

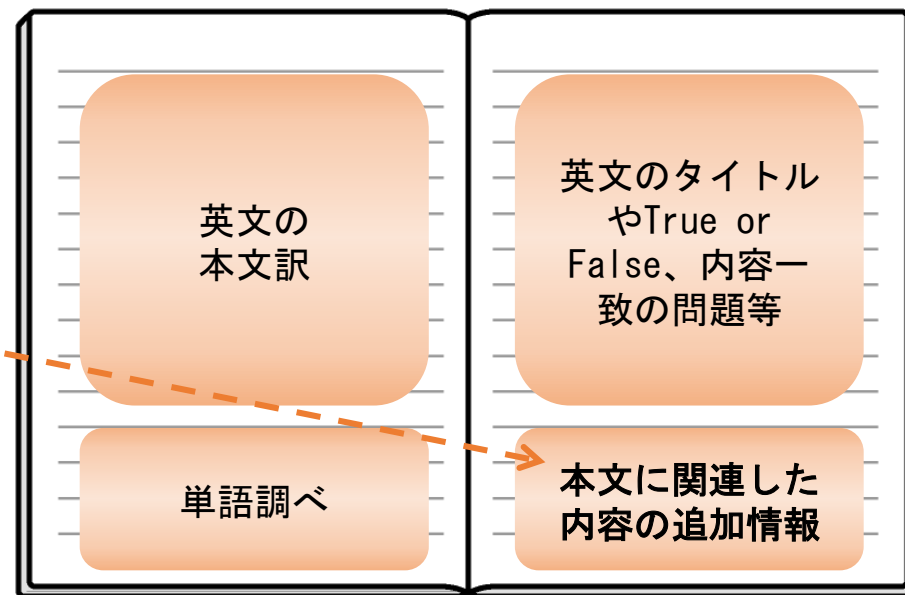
- 課題解決に向けて教科として話し合ったこと
- 「スモールトーク」等で特定の話題や語句等について、生徒が**即興で自分の考え等を話す**場面を設定することで、コミュニケーション能力が向上するのではないか。
- 予習状況を確認する際に、生徒が前向きに学ぶことができるようなフィードバックをするとともに、スタンプ等を活用して**学習状況を可視化**することで、メタ的に学習状況を捉えられるのではないか。
- 予習を単語の意味調べや日本語訳だけで完結させるのではなく、本文の内容に関する追加情報を調べることで、**探究的な要素**を入れられるのではないか。
- 「主体的・対話的で深い学び」を実現するために教員と生徒、生徒と生徒の**インタラクション**を充実させることで、**協働的な学び**が促進するのではないか。
- 教員がモデルとなって英語を使用するとともに、生徒の発話に対して適切なリキャストを行うこと等により、英語学習のモチベーションが向上するのではないか。



【スモールトーク】

○特定の話題について、その場で即興で自分の考えを相手に伝えたり、相手の話す内容について質問したりすることで国際社会で求められる英語力の向上が期待できる。

○毎時間、授業の帯活動として継続することで、授業中に英語を話す雰囲気作りに効果的である。



【予習ノート】

●ある府立高校の実践事例

単元の指導と評価の計画

科目名：英語理解（２年）

単元名：Selective Breeding—How man's best friends were created—

1 単元の目標

- (1) 社会的な話題である「犬の品種改良の長所と短所」に関する説明を読んだり聞いたりして、必要な情報や考えなどを理解したり、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができる。
- (2) 社会的な話題である「犬の品種改良の長所と短所」に関する理解を基に、多様な語句や文を用いて、情報や考えなどを詳しく伝えることができる。
- (3) 社会的な話題である「犬の品種改良の長所と短所」に関する背景知識や語彙・文法事項などの学習に主体的に取り組むことができる。また、学習内容や小テスト等の結果に応じて自己の学習を調整することができる。

ポイント

本文の内容を理解することがゴールではなく、学習した題材に関する語句や表現等を実際に活用することが重要。

本文に記された情報だけでなく、「自分の意見や考えを伝えられるようになって欲しい。」という育てたい生徒の姿を記載することにより、単元計画を立てる際に、各時で身に付けておくべき英語運用能力を明確にする。

2 単元の評価規準

知識・技能【a】	思考・判断・表現【b】	主体的に学習に取り組む態度【c】
犬の品種改良の長所と短所について、必要な情報や考えなどを理解して、概要や要点、詳細を捉えることができる。	犬の品種改良の長所と短所について、多様な語句や文を用いて、情報や考えなどを伝えることができる。	犬の品種改良の長所と短所について、多様な語句や文を用いて、情報や考えなどを伝えようとしている。



3 単元の指導と評価の計画（全6時間）

時間	学習内容	主な評価規準 (評価方法)
第1時 第2時	Lesson 7 Part 1: Why can you say dogs are an invaluable part of human society? 犬と人間とのかかわりについて理解する。	【a】（小テスト） 犬の品種改良の長所と短所について、必要な情報や考えなどを理解している。
第3時	Lesson 7 Part 2: What are the purposes of selective breeding? 犬の品種改良の利点について理解する。	【b】（週末課題） 犬の品種改良の長所と短所について、多様な語句や文を用いて、情報や考えなどを伝えることができる。
第4時 (本時)	Lesson 7 Part 3: What do many people think about pit bulls? 犬の品種改良の欠点について理解する。	【a】（小テスト） 犬の品種改良の長所と短所について、必要な情報や考えなどを理解している。
第5時	Lesson 7 Part 4: What can you say about the relationship between dogs and humans? 品種改良の是非について議論する。	【a】（小テスト） 犬の品種改良の長所と短所について、必要な情報や考えなどを理解している。
第6時	Lesson 7 Part 4 B: What can you say about the relationship between dogs and humans? 品種改良の是非について議論する。	【b】（週末課題） 犬の品種改良の長所と短所について、多様な語句や文を用いて、情報や考えなどを伝えることができる。 【c】（振り返り） 犬の品種改良の長所と短所について、多様な語句や文を用いて、情報や考えなどを伝えようとしている。

ポイント

第6時に品種改良の是非について議論することができるように、背景となる知識を豊かにさせるとともに、賛成・反対やその理由を伝える表現方法を提示する。

ポイント

学んだ内容を踏まえ、アウトプットする場面を設定することで、生徒の英語運用能力の向上の状況を見取り、形成的評価を行う。

ポイント

第6時で求められる力を発揮することができるように、何のために、なぜ本文を読むのかの動機付けを前時まで十分にしておく。また、どこまでできていれば、「十分満足できる状況【A】」または「おおむね満足できる状況【B】」なのかを想定しておく。

外国語

* 「知識・技能」と「思考・判断・表現」の観点における総括的評価は、定期考査においても行う。
* 「主体的に学習に取り組む態度」の観点における総括的評価は、小テストや予習、週末課題、振り返りなどへの取り組みをもとに行う。

4 第4時の展開

(1) 本時の目標

- ・前時の内容「犬の品種改良の利点」について、本文に書かれた情報や自分の考えを英語で表現することができる。
- ・本時の内容「犬の品種改良の欠点」について理解することができる。また、「犬の品種改良の欠点」の文章を聞き手に伝わる英語で音読することができる。

(2) 本時の評価規準

- ・授業の予習に主体的に取り組んでいる。
- ・前時の内容について、本文に書かれた情報や自分の意見を英語で表現している。
- ・本時の内容について、本文の語彙、文法事項、構文分析に基づき理解している。

(3) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
10分 導入	あいさつ&スモールトーク [2 min] 小テスト(単語) [6 min] ・Lesson 7の新出単語を中心とした単語テストに取り組み、その場で解答を確認する。 Answer Check [2 min] ・Lesson 7 Part 3の予習で解答した答えをフォームに入力し、クラス全体で解答の傾向を確認する。	ペアでの積極的な英語の発話を促す。 クロームブック(クラスルーム)を活用した小テスト。 小テストを実施している間に机間指導をして予習状況を確認する。主体的な取り組みは予習したノートにスタンプを押すなどして積極的に褒める。生徒の予習内容で授業で紹介できる内容があれば授業に組み込む。	前時の内容で扱った単語等について理解している。(小テスト)
15分 展開1	Review (Part 2) 1. Picture Guessing (3 min) ・前回の授業で扱った新出単語を中心に4語ずつ、相手に伝わるように英語で説明する。 2. Review Questions (12 min) ・前回の授業で扱った長文に関する内容理解問題を英問英答形式で解答する。	間違いを恐れずに主体的に英語を話すように促す。正解に応じて、スタンプを押すなどして積極的に褒める。ジェスチャーに頼りすぎないように留意させる。 グループでの対話的・協働的な学びを促す。指名が特定の生徒に偏らないように留意する。	前時の内容について、本文に書かれた情報や自分の意見を英語で表現している。(机間指導等)

ポイント

生徒が英語でコミュニケーションを取ろうとする雰囲気づくりをするために、多様な言語活動をスモールステップで取り組むことができるように工夫をした。

(例)

○ペアでの活動

前時の新出単語を交互に説明し合い、その単語を推測する言語活動

○グループでの活動

前時の英文の内容の質問に4人1グループで回答を協議し、全ての人が発言する機会を確保する言語活動

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
35分 展開2	<p>Reading Practice (Part 3)</p> <p>1. Listening Comprehension [5 min] ・音声を聞いてメモを取る。自分の理解した内容をペアで確認する。1回目は全体の概要を掴む、2回目は詳細を理解することを意識する。</p> <p>2. VocaBuilding [5 min] ・新出単語の音声を確認しながら口に出して練習する。語彙の使い方や語源・同義語・対義語などの解説を聞きながら語彙に関する知識を拡げる。</p> <p>3. Ondoku Practice [5 min] ・チャンクごとで長めのポーズが置かれた英文を聞いて、チャンクごとにリピートする。スラッシュで英文を区切りながら意味のカタマリを確認する。 ・ペアで交互に英文を音読する。</p> <p>4. Reading Comprehension [15 min] ・本文にある1文1文の文構造や文法事項をスライドを見ながら確認していく。 ・文の構造を正確に理解し精読力をつける。</p> <p>5. Answer Check [5 min] ・ペアでそれぞれの選択肢を吟味し、解答の根拠や疑問点を明確にする。 ・スライドを見ながら予習の答え合わせを行う。</p>	<p>ペアでの対話を通じて自分が聞き取れていない箇所を明確にし、理解を深める。</p> <p>注意すべき発音・アクセントに関してはマーカーをしながら意識させる。</p> <p>対話的な学びを促すために、様々な観点から発問や問いかけをする。ペアワークを通じて本文内容の深い理解につなげる。</p> <p>予習のAnswer Checkで正解率の低かった問題はペアで考えさせる。</p>	
5分 まとめ	<p>Ondoku Practice</p> <p>・チャンクごとで短めのポーズが置かれた英文を聞いて、チャンクごとに英文をリピートする。 ・文字が消えていくスライドを見ながら、英文を音読する。 ・ペアで背中合わせになり、交互に英文を音読する。</p>	<p>スライドの文字が見えづらい生徒に関しては、冊子を音読するように伝える。 ゲーム感覚で楽しく音読に取り組ませる。 相手に伝わるような音量・発音を意識させる。</p>	<p>本時の内容について、本文の語彙、文法事項、構文分析に基づき理解している。(机間指導等)</p>

ポイント

教員の一方的な説明にならないように、生徒へテンポよく多様な質問をし、生徒とやり取りをしながら、語彙の働きや使用場面を意識させることに留意した。

ポイント

授業冒頭に生徒がフォームで回答した本文の内容一致問題について、全体の回答状況から教員が改めて生徒へ考えを深めて欲しい部分を示し、ペアで授業前後の考えの変容を協議した。

<対話的な学び>



互いの考えを比較する

<深い学び>



思考して問い続ける

実践の振り返りから考えられること

- 外国語において、主体性で重要となることは『相手意識』を持ってコミュニケーションを取ることである。例えば、「スモールトーク」の場面で、話し手は相手に伝わる適切な声量やアイコンタクト、ジェスチャー等を意識する必要があり、聞き手は相手の話したことに適切に相槌を打ったり、復唱や言い換え、質問をしたりすることが『相手意識』を意識した言語活動になると考えられる。
- 授業を実際のコミュニケーションの場面とするためには、教員が英語を使用するモデルとなるとともに、授業中に生徒が英語を話しやすい雰囲気づくりと話すために必要な支援を行うことが求められる。例えば、前時の復習を行う際に、教員の英語の質問に対してグループ単位で回答を考えるとともに、どの生徒も発言する機会があるようしかけをすることにより、英語を話すことにあまり自信が持てない生徒も同じグループのメンバーの協力を得ながら協働的に学ぶことが可能となると考えられる。
- 学んだことをアウトプットすることが重要である。自分で表現したり他者の意見を聞いたりする過程で理解が深まり、英語でコミュニケーションを取っておもしろさや達成感を実感することができる。そのことが主体的で自律的な学習者を育成につながると考えられるので、何のためにコミュニケーションを取るのか、生徒にとって意味あるものとしていく工夫やしかけが必要となる。

